

## 企業景況・動向調査

### ●はじめに

取引先を対象に、当地区企業の景況・動向調査を目的としたアンケートを実施した。概要は以下の通り。

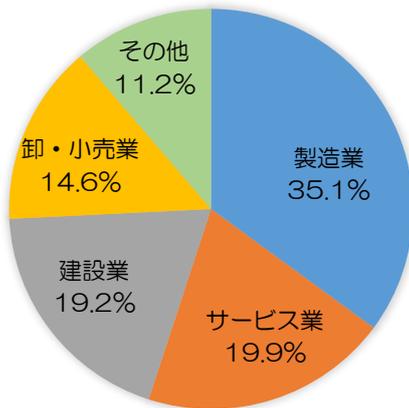
### ●調査概要

調査時期 : 令和6年7月17日(水)

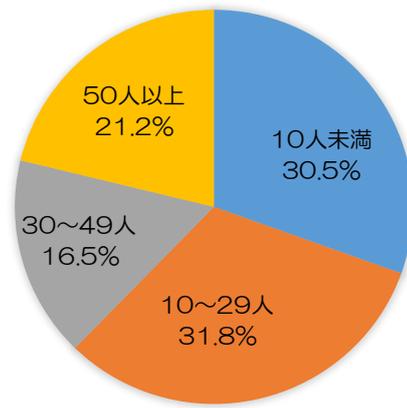
調査対象 : せいしんビジネスクラブ会員

回答数 : 対象企業数 177社 回答数 151社 有効回答率 : 85.3%

《業種内訳 (n=151)》



《従業員規模内訳 (n=151)》



### ●要旨

～ 人手不足感は依然として強く、中途採用を積極化する動き ～

～ 仕入価格や人件費などのコスト増加を懸念する割合が増加～

～ 今後の経営課題では、7割超の企業が「人材の確保・育成」を挙げる～

#### ◆ 売上高実績と見通しについて

- 売上高実績 (2024年1月～6月) は、「横ばい」が45.0%で最多、次いで「増加」(35.1)%となった。
- 売上高見通し (2024年7月～12月) は、「横ばい」が47.7%で最多、次いで「増加」(33.8)%となり、実績と見通しに大きな差はない。

#### ◆ 経常利益実績と見通しについて

- 経常利益実績 (2024年1月～6月) は、「黒字」が72.8%となった。
- 経常利益見通し (2024年7月～12月) は、「黒字」が79.6%と、現状を上回る見通しとなった。

#### ◆ 雇用状況・採用予定について

- 現在の雇用状況は、「過剰」が12.0%、「適正」が32.0%に対し、「不足」が56.0%と半数を超えた。
- 今後の採用については、新卒採用の予定がある企業が29.6%に対し、中途採用の予定がある企業が50.7%と、多くの企業が「中途採用」に力を入れていることが窺える。

#### ◆ 設備投資について

- 現在の設備状況は、「適正」が半数を超える一方、「不足」は40.0%と前回調査と同じであり、設備投資の必要性を感じている企業は依然として多い。

#### ◆ 今後の懸念材料について

- 今後の懸念材料は、「人材の確保」が66.2%で最多、次いで「人材の育成」(50.7%)、「燃料・原材料、仕入価格の変動」(42.6%)、「人件費の上昇」(36.5%)となり、人材に関する懸念事項が上位に挙がった。

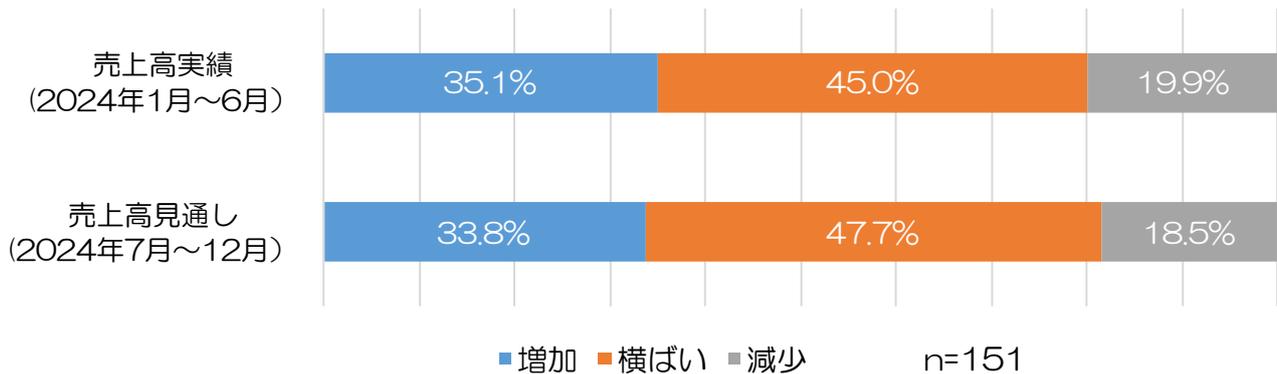
#### ◆ 今後、重視する経営課題について

- 今後重視する経営課題は、「人材の確保・育成」が70.7%で最多となり、次いで「新規顧客・販路の開拓」(45.3%)、「コスト削減・業務効率化」(30.0%)となった。
- 前回調査と比べ、「賃上げ」が3.7ポイント増加するなど、給料面の改善を通じて、人材の確保に取り組む企業が増加しそうである。

※本アンケートの数値は小数点第二位を四捨五入しております

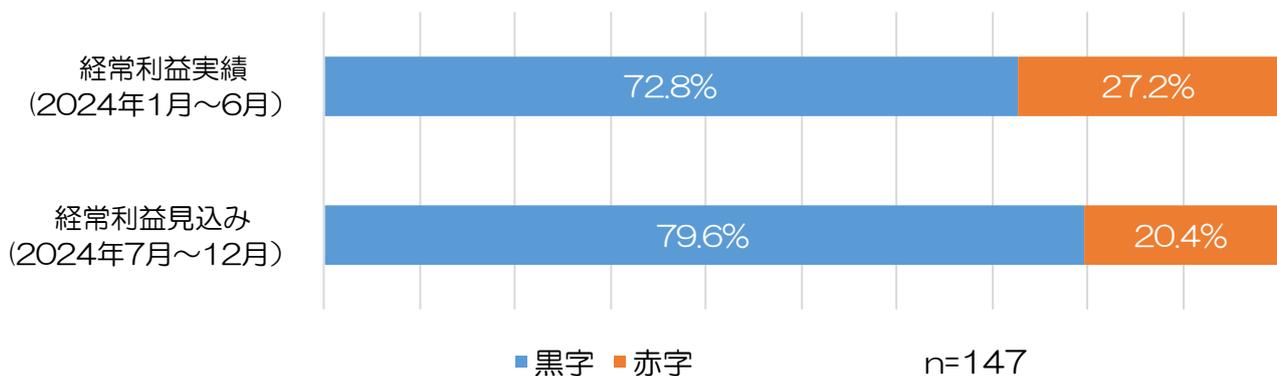
Copyright (C) 2024 THE SEISHIN SHINKIN BANK. All Rights Reserved.

## 1. 売上高実績と今後の見通しについて (SA)



売上高実績と今後の見通しについて尋ねたところ、2024年1月～6月の売上高実績は、2023年7月～12月と比較し「横ばい」が45.0%で最多となり、次いで「増加」(35.1%)となった。2024年7月～12月の売上高見通しについては、「横ばい」が47.7%で最多となり、次いで「増加」(33.8%)となった。実績、見通しに大きな差はなく、今後も安定的な推移が予想される。

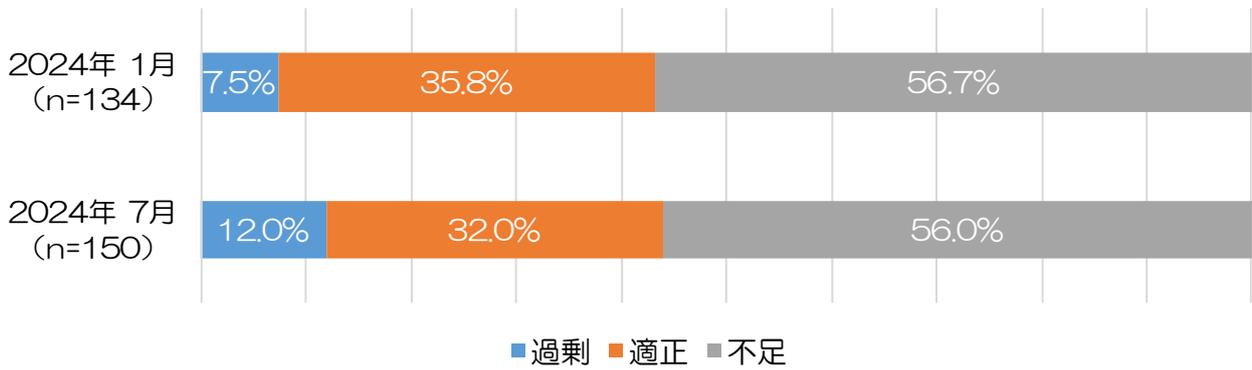
## 2. 経常利益実績と今後の見通しについて (SA)



経常利益実績と今後の見通しについて尋ねたところ、2024年1月～6月実績は、「黒字」が72.8%と、多くの企業が利益を確保した。2024年7月～12月の見通しについても、「黒字」が79.6%と、実績を6.8ポイント上回った。

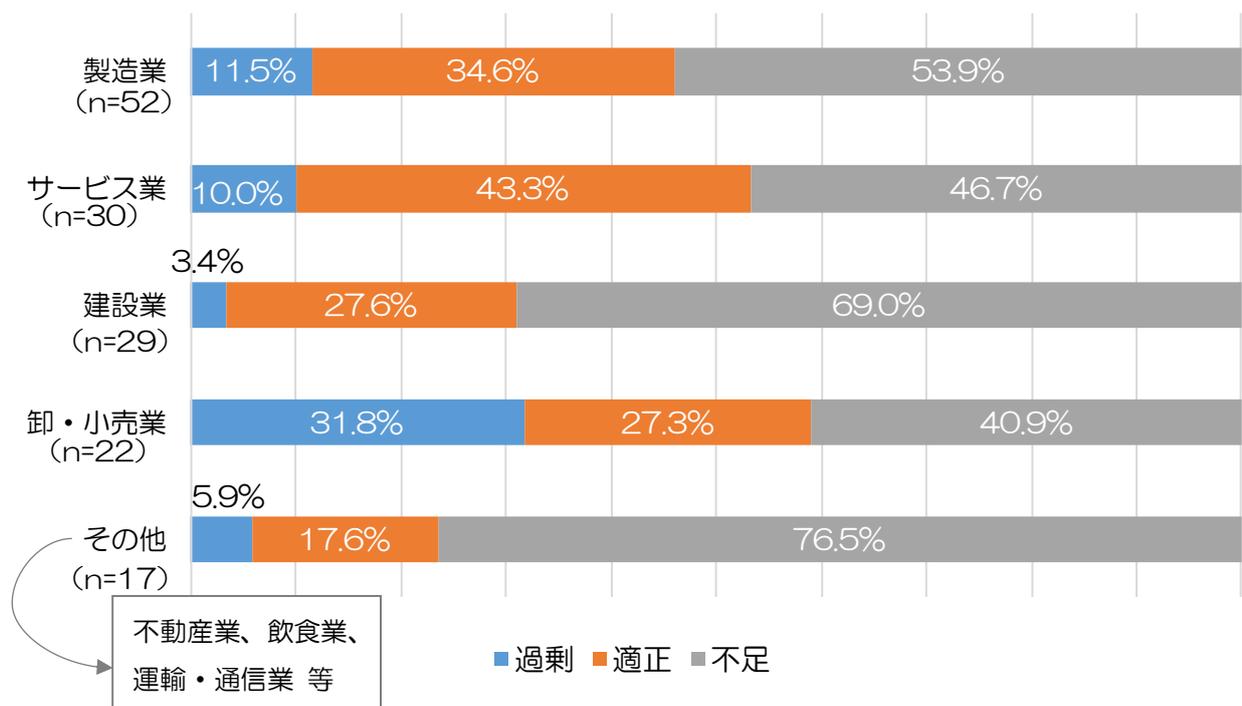
### 3. 雇用状況について

#### 3-1. 現在の雇用状況について (SA)



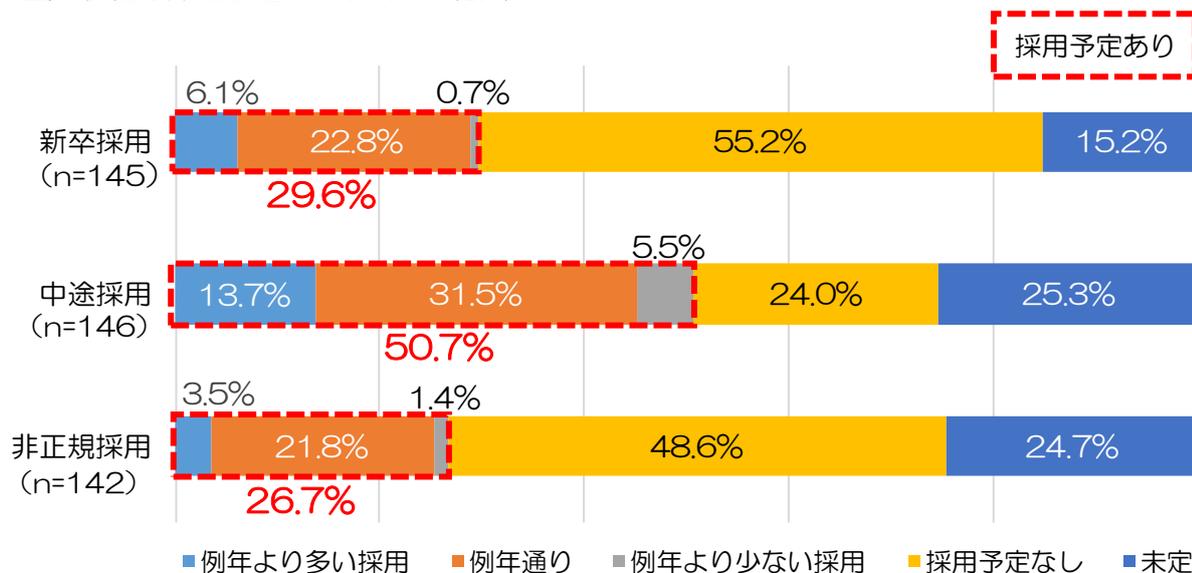
現在の雇用状況を尋ねたところ、「不足」が56.0%で最多となり、次いで「適正」(32.0%)となった。2024年1月調査に続き、「不足」とした割合が半数を超え、依然として多くの企業が人手不足にある様子が窺える。

#### 【業種別】現在の雇用状況について



現在の雇用状況を業種別に見ると、全ての業種で「不足」が最多となった。建設業では「不足」と回答した企業が69.0%と約7割にのぼった。一方、卸・小売業は「不足」が40.9%と最も低く、「過剰」が31.8%という結果となった。業種により、雇用状況に差があることがわかる。

### 3-2. 今後の採用予定について (SA)



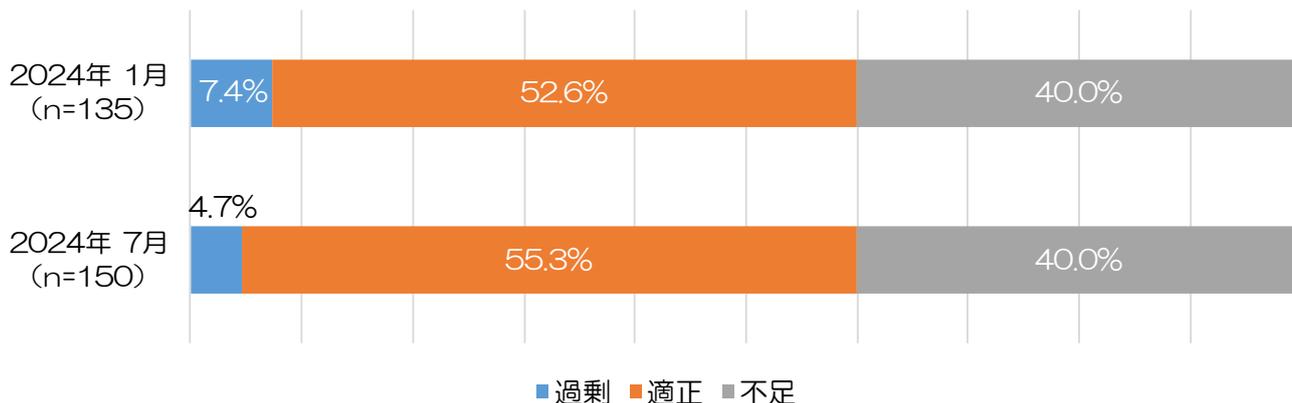
今後の採用予定について尋ねたところ、新卒採用については、「採用予定なし」が 55.2%で最多となり、次いで「例年通り」(22.8%)、「未定」(15.2%) となった。

中途採用については「例年通り」が 31.5%で最多となり、次いで「未定」(25.3%)、「採用予定なし」(24.0%) となった。採用予定がある企業(「例年より多い採用」、「例年通り」、「例年より少ない採用」の合計)が 50.7%と、新卒採用(29.6%)に比べ高く、多くの企業が「中途採用」に力を注いでいることが窺える。

非正規採用については「採用予定なし」が 48.6%で最多となり、次いで「未定」(24.7%)、「例年通り」(21.8%) となっている。

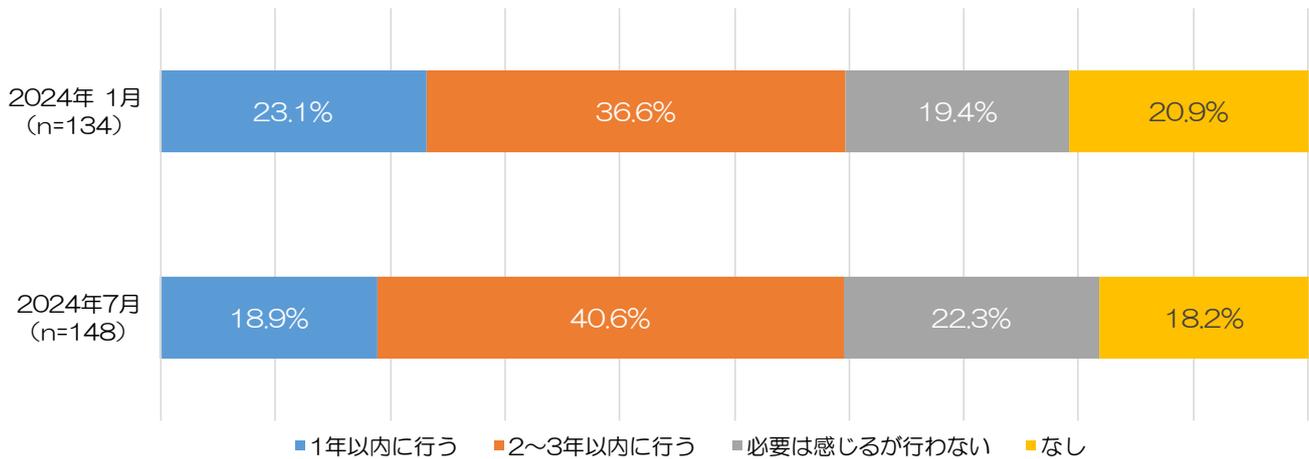
## 4. 設備投資について

### 4-1. 現在の設備状況について (SA)



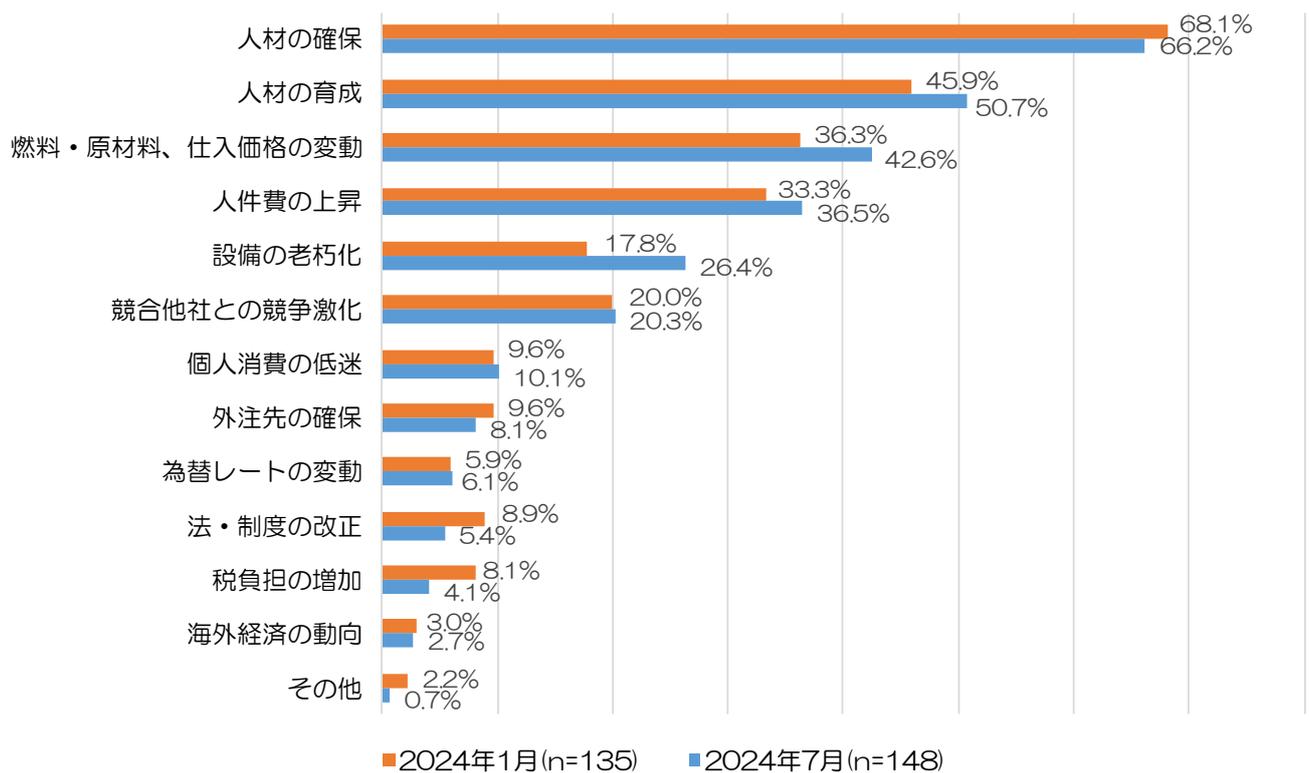
現在の設備状況について尋ねたところ、「適正」が 55.3%で最多となり、次いで「不足」(40.0%) となった。「適正」が半数を超えている一方、2024年1月調査と同様に「不足」と回答した割合が 40.0%もあり、設備投資の必要性を感じている企業が依然として多いことが窺える。

#### 4-2. 今後の設備投資の予定について (SA)



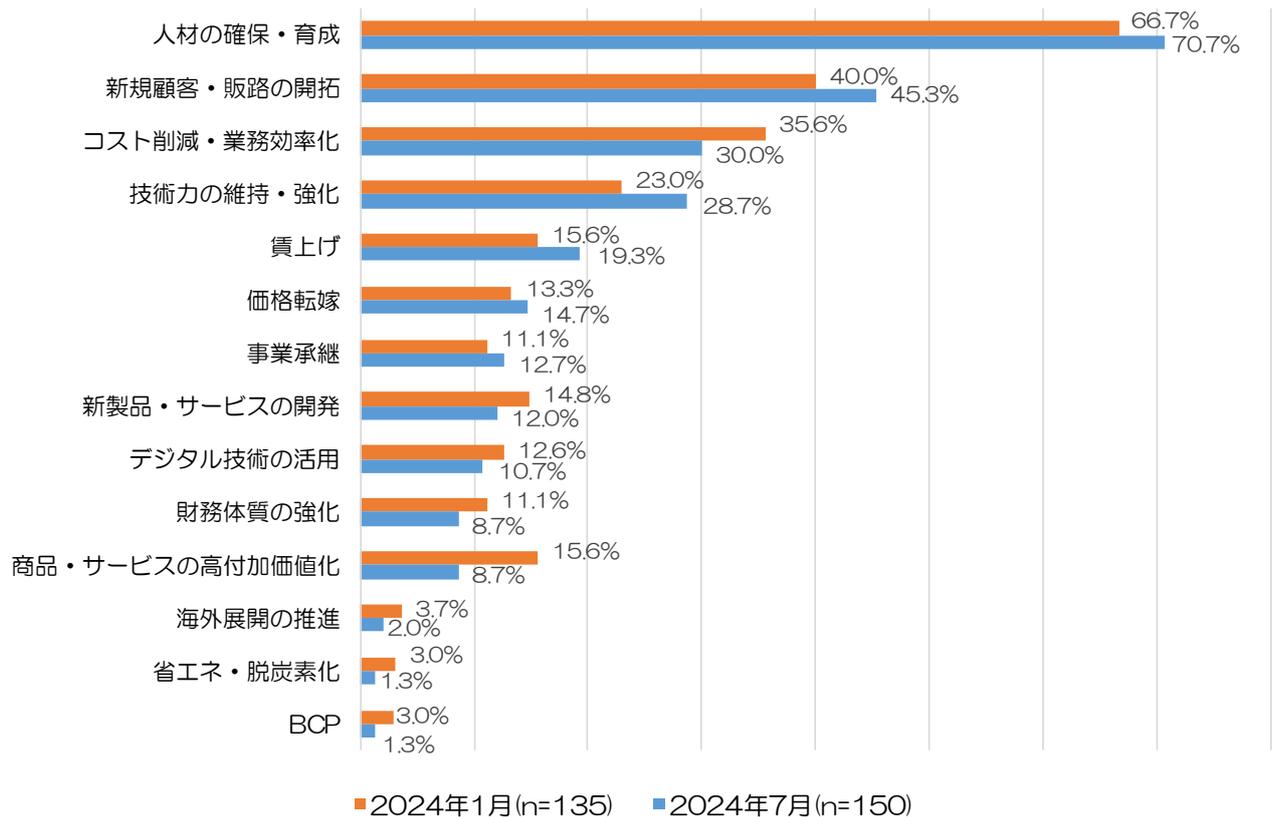
今後の設備投資の予定について尋ねたところ、「2~3年以内に行う」が40.6%で最多となり、次いで「必要性を感じるが行わない」(22.3%)、「1年以内に行う」(18.9%)となった。設備投資を行う予定がある企業(「1年以内に行う」、「2~3年以内に行う」)は59.5%となり、2024年1月調査(59.7%)と大きく変わらないが、「1年以内に行う」と回答した企業は4.2ポイント減少した。

#### 5. 今後の懸念材料について (MA、3つまで)



今後の懸念材料について尋ねたところ、「人材の確保」が66.2%で最多、次いで「人材の育成」(50.7%)、「燃料・原材料、仕入価格の変動」(42.6%)、「人件費の上昇」(36.5%)となり、人材に関する懸念事項が上位に挙げられた。また、2024年1月調査と比べ「燃料・原材料、仕入価格の変動」が6.3ポイント、「人件費の上昇」が3.2ポイント増加した。物価高騰の影響もあってか、仕入価格や人件費などのコスト増加を懸念している企業が増えている様子が窺えた。

## 6. 今後、重視する経営課題について（MA、3つまで）



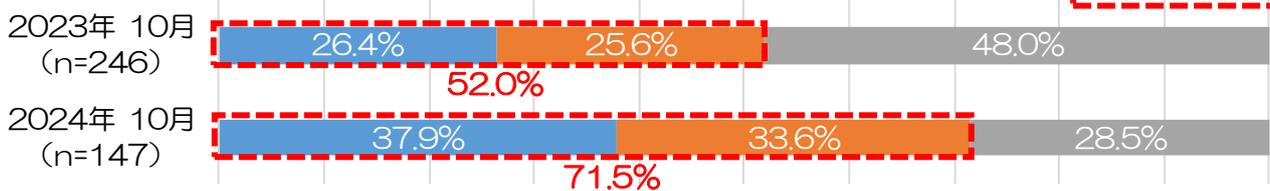
今後重視する経営課題を尋ねたところ、「人材の確保・育成」が70.7%で最多となり、次いで「新規顧客・販路の開拓」（45.3%）、「コスト削減・業務効率化」（30.0%）となった。7割超の企業が人材に関する課題を挙げ、2024年1月調査と比較して「賃上げ」が3.7ポイント増加するなど、給料面の改善を通じて、人材確保に取り組む企業が増加しそうだ。

### 【参考：最低賃金引き上げに関する影響】

#### 仮に2024年10月に最低賃金が1,034円（+50円）に上げられた場合について（SA）

※前回調査時は、984円（+40円）に引き上げられた場合を想定

賃金を上げる



- 最低賃金を下回るため、賃金上げが必要になる
- 最低賃金を下回らないが、賃金を上げる
- 最低賃金を下回らないため、賃金は変えない

仮に2024年10月に最低賃金が1,034円（+50円）に上げられた場合について尋ねたところ、「最低賃金を下回るため、賃金上げが必要になる」が37.9%、次いで「最低賃金を下回らないが、賃金を上げる」が33.6%となった。賃金を上げるとした企業は71.5%にものぼり、前回調査（52.0%）の時より影響が大きい様子が窺える。

以上

（静清信用金庫 経営相談部 令和6年7月作成）